※令和４年度以降入学生用

学校番号	４０５

令和８年度　学書表現科

教科	学書表現	科目	(学)表現演習	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	「書Ⅱ」（光村図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・古筆の鑑賞と臨書を通して仮名の書の基本的用筆法及び表現方法を学んでいきます。
・仮名の美しさを深く感受し、仮名特有の構成等を学び、効果的に表現していきましょう。
・代表的な古典作品を臨書することで、表現力を養い、創作活動へと展開していきます。

2　学習の到達目標

・知識及び技能：
　仮名の書の基本的な用筆を学び、臨書と創作を通して創造的な表現力と鑑賞の能力を培う。
・思考力、判断力、表現力等：
　古筆の美しさ・多様性を感じ取り、鑑賞と臨書で得た知識を個性豊かに、創作活動へと発展させ、考察力と表現力を身に付けていく。
・学びに向かう力、人間性等：
　日本の伝統的な仮名の美しさを感受できる感性を育成する。書の伝統に関心を持ち、日本独自の文字文化に親しみ、大切にする心情を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・鑑賞を通して古筆の用筆や特徴、紙面形式に関する知識が身についている。 ・仮名と変体仮名の使い分けによる表現効果や、連綿の法則を理解できている。 ・仮名の字形を捉え、基本的な用筆・運筆ができている。	・鑑賞・臨書で触れた仮名の技法や構成に関する知識を生かし、工夫した表現ができている。 ・文字の流れや大きさ、配列など、表現のイメージに合った紙面形式の選択と、その表現ができる。 ・古筆から感受したものを生かし、構成に工夫のある効果的な作品制作ができている。	・仮名の流麗さ・美しさを積極的に味わい、さまざまな古筆を鑑賞、比較、臨書することで、その印象や表現の違いを主体的に楽しみ、感じ取ろうとしている。 ・倣書では主体的に古筆を選択のうえ、試行錯誤を繰り返す姿が見られる。 ・裏打ちでは協力する姿勢が随所に見られる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	仮名について	・仮名の成立や種類について ・いろは歌と字源の理解 ・仮名に関する小テスト	a. 時代による仮名文字の推移を理解している。 字源が筆順や字形に関係していることをきちんと理解できている。 c. 漢字の伝来から仮名の成立に至る過程に関心を持ち、積極的に仮名の種類について理解しようとしている。	提出 プリント		提出 プリント 小テスト 作品
1	仮名の運筆	・連綿・変体仮名の練習	a. 連綿や変体仮名による表現効果を理解し、その用筆・運筆の技法を習得している。 平仮名と変体仮名の違いを理解している。 c. 平仮名と変体仮名による表現の工夫を、主体的に学ぼうと臨書と鑑賞に取り組んでいる。	作品		作品 制作過程 振り返りシート
2	古筆の臨書①	・「高野切第三種」の臨書	a. 「高野切」の伝来と「第三種」の意味、書風や料紙について理解している。 連綿の法則を理解し、表現するための用筆・運筆の技法を習得している。 b. 典型的な仮名の美を感じ取り、書風を的確に捉え、臨書に生かしている。 c. 古筆に興味関心を持ち、その美を存分に味わおうとしている。	作品 ワークシート	作品 取組状態	作品 取組状態 ワークシート 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

2	倣書作品制作	・集字により和歌を創作する 批評会 ・表装	a. 創作の手順を理解できている。学んできた古筆の特徴や技法を生かした創作活動ができている。 b. 表現したい和歌と感興に応じて、作品への生かし方を構想し工夫を繰り返し、効果的な表演が。 c. 和歌や季節に合わせて料紙を選び、料紙を使うことに喜びが持てる。互いの作品の批評から、表現の意図や効果について主体的に理解を深めている。	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品 学習活動の様子 ワークシート 振り返りシート 展示
3	古筆の臨書②	・「寸松庵色紙」の臨書 ・意見交換	a. 仮名遣いや字形、線質、連綿の特徴を理解し、表現するための技法の習得ができている。 b. 古典の書風とそれを形成する表現の要素、構成の仕方等を理解し、臨書に生かしている。 c. 表現の特徴や印象など、自分の考えを発表し、傾聴できている、	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品 ワークシート 学習活動の様子
3	漢字かな交じり作品制作	・個人でそれぞれ文章を考え、半紙サイズの漢字かな交じり作品を制作する。 ・グループで一つの文章、構成を考え、3m×5mほどの紙に作品を制作する。	a. 芸術的な表現をするために、これまでに学んだ古典を思い出し、その形式や表し方を改めて理解している。目的や用途に即して表現する技能を身に付け、表現している。 b. 様々な表現の違いと美を感じ取っている。自己の表現のねらいを達成するために、自らの表現意欲を高め、用具・用材、線質、字形、全体の構成などについて工夫している。 c. 書を身近なものとして捉え、目的や用途に即した芸術的な表現について基礎的な事項を理解し、自ら表現活動を楽しんで行おうとしている。	作品 ワークシート	作品 ワークシート	作品 学習活動の様子 ワークシート 振り返りシート 展示

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度